

# 支部協びより

第21号

発行所  
NTT労組退職者の会  
沖縄県支部協議会  
沖縄県浦添市城間4-35-2  
☎098-870-7101

責任者  
稲福政吉

## 年頭の一言

会長 稲福政吉

会員のみなさん二〇〇〇年あけましておめでとうございませう。西暦一〇〇〇年代から二〇〇〇年代に千百年ぶりに変わる節目を『ミレニアム』と言うそうです。このような歴史の節目に生きている私たちにとって有意義にしたい年でもありません。

昨年、平成十二年の干支は、辰年で辰は竜または龍とも書きます。『神竜も水を失って陸居すれば蟻に裁せられ』といひ伝えてあります。これは昨日の隆盛も今日は落魄でいゆる栄枯盛衰のことで神通力を成めています。貧乏の島の沖縄に対して物量で懐柔する政府の政策もいつか落魄をみると思いません。



## 今年の定年退職予定者名簿

(二月十四日ライフプランで作成)

川満光栄	富山勝男	島袋利光	山城信行	桑江千鶴子	大城昌子	山城洋子	中園吉恵	大城次夫	仲里庸夫	下里貞子	屋良澄子
山入端幹男	玉城長生	玉城健次郎	神谷盛淳	山城安子	宮城一夫	宮城功	玉那覇有光	盛島薫宗	石原好子	新良ハツ	照屋恒
稲福勝	幸地春隆	宮城春一	古堅文男	具志堅文男	大田好子	照屋喜久代	普天間吉夫	島袋賀助	伊志嶺泰一	高良清	細工忠郎
湧川朝善	宜保定則	神里マサ子	湧上和江	緑間光枝	遠山時恵	又吉信篤	田盛正英	与那原孝子			

## 職安通いも、また楽しい



また楽しい

垣花廣光

停年退職とはいえ(定年でない、人生の途中下車である)、目下失業中の身である。再就職の意思表示と失業認定を受けるため、四週間に一回の割合で職安通いを続けている。それもあと少なくなった。年金は受給手続きを済ませてしまえば、間違いなく

通帳に振り込まれてくる。しかし、職安通いとは如何に? それは支給額が少し年金より上回ることで、それに節税対策もあるが、何よりも同僚と会えることだ。健康の状態、近況などたわいもない話だが、ほっと安心感が得られる。誰かが定刻に遅れそうになると心配

する。

また高校時代の同期生にも会う。そういう年齢だと、あらためて感じちゃう。そろそろ健康手帳の切り替え時期で、NTTからは保険料を払うようにと通知が届く。国民健康保険にすべきかどうか、集まったみんなの情報交換。我々にとっては、結構楽しいところだ。それもやがてでなくなる。少し寂しくなるかなあ。



## これからの行動日程

- 一、全国交流集会  
時 2000年4月12日~13日  
所 ホテル竹島 愛知県蒲郡市竹島海岸
- 一、NTT労組沖縄県支部春闘まつり  
時 2000年3月11日(土) 午前11時  
所 沖縄県総合運動公園「サブグラウンド」



### 支部協議会 代表会議終る

昨年の十二月一〇日から

十一日の二日の日程で静岡のユニティー伊豆において初めての代表者会議が開かれた。これは支部協と中央の協との連携を強化するためのもので、大変有意義な催しであった。



詳細は全国紙のひろがりネット昨年十二月二十五日(土)号を参照して下さい。

### 第三回支部委員会 開かる

去る一月十四日、午前十時から午後七時までの日程で楚辺のプラザでいごで沖縄県支部の第三回支部委員会が開かれた。

特別支部委員として、稲福会長が出席した。これは春季生活闘争へむけての中央委員会及び西本部委員会

に対する県支部の態度を決める委員会である。会からはお願いとしてあえて、本年度の退職者の会への全員加入の促進を訴えました。

### 旅の思い出トーク

## 情熱のスペイン9日間の旅

与那嶺 米子

\*署名運動への協力お願い\*  
別紙の署名用紙を同封しますので、おそくとも三月の初めまでに事務所(浦添市城間四一三五―二)に届くように送って下さい。

心待ちにしていた、スペイン9日間の旅を10月29日から11月6日までの日程で楽しませてもらいました。

初日は関西で1泊し、翌日JAL421便にてマドリッドへ出発しました。途中、乗り継ぎのロンドンで機内整備のため、90分の待

機があり、ホテルに到着したのは、午前客時をまわっていました。空の長旅で疲れていたせいか、深い眠りに入りました。

次の朝、マドリッド市内観光では、絵画館として世界一を誇るプラド美術館を訪れました。作家ごとに整理された宗教学や彫刻があり、身近なところで初めて見る名画の数々に感動しました。

その後、ネオクラシック様式で知られる巨大王宮、ドンキホーテとサンチョパンサ像のあるスペイン広場を後にしました。石造りやレンガ造りの家並が丘陵地

に開けた町トレドでは、夕暮れどき、ライトアップされた美しさが幻想的でした。4日目、列車にてコルトバへ向かいました。かつての栄光を象徴するかの様にそびえ立つモスクワの大聖堂、壁かけ花瓶で彩られる白壁の民家が調和されて不思議な美しさがある静かな町でした。

5日目、セビリアでは回教徒のモスク跡に百年かかって建てられたというスペイン最大の巨大カテドラルや、かつてユダヤ人の生活の場であったというサンタクルス街を見学しました。ミハスでは、山麓にある白壁と格子戸のあるおしゃれの町らしく、名物ロバタクシーで一周するところは、軽井沢を思わせる観光地でした。6日目、グラナダ市内観光では、壁から天井までアラ

ベスク模様が見られ、大きな大理石の柱、森、水、周辺の風景、自然をうまく取り込んだ、美しくも巨大な建造物アルハンブラ宮殿を見学しました。その後6時間バスに揺られてバレンシアへ。車窓からは、岩肌には張りつく様に建てられた家や、広大なオリブ畑をみながら、車中は儀間さんと新垣さんの司会で、即席合唱団アンマーズの歌や踊り、ろうきんの西郷輝彦さんと儀保さんの独唱で大にぎわい。ホテルに着いた時はぐったりしました。

7日目、最終日のバルセロナ市内観光では天才建築家、ガウディの作品である、グエル公園の洞窟状のアー



ケードや怪物のモニュメント、おかしな家まで、自然を生かして造られたものが現在もなお美しく新鮮でした。

また、百年経った今でも建築中のサグラダファミリア教会では、細かい彫刻と巨大さにただ驚くばかりでした。ピカソ美術館では今まで見たこともない、少年時代の版画や、男と女のテーマの絵、宗画など興味深く観ることができました。

旅行最後の夕食はポリュムたっぷりの地中海料理で、食後は楽しみにしていたフレンチの観賞でしたが、満腹と遅い時間のせいかわい、口にしながらい、睡眠には勝てませんでした。

スペインの街すべてが、中世そのままの巨大美術館のようでした。やさしいゆかいな仲間達で、年の差を越えた新たな友情も芽生えたと思います。たくさん感動と感激にグラシアス。次の企画を楽しみにしていきます。

